

令和3年度 福祉サービス第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」

No.	【 医療型児童発達支援センター(通園) 】		担当部署	回答内容等
1	タイトル	施設・設備面の改善策について検討することが望まれます	通園科	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療型児童発達支援センターとして、重症心身障害児や肢体不自由児を中心に、それ以外の障害児も受け入れているが、設備面においては昭和63年の開設以降大きくは変更していない。 ・刺激を遮断できる保育室等はなく、障害特性に合わせた環境設定が難しい。 ・子どもたちが利用しやすいよう、トイレについては便座の高さの改善や暖房便座を新たに設置するなどの改修を近年行っている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備面においてすぐに改善することは難しいが、感覚過敏な児の給食場面ではパーテーション等で囲って視聴覚の刺激軽減を図ったり、保育室内の視覚的な刺激を遮断して、課題に集中できるようカーテンを活用する等の工夫をしている。 ・今後も可能な範囲で設備面の改善に取り組んでいく。
内容	<p>子どもの障害程度は多様で重症度が増し、医療的ケアを要する重症心身障害児が4割を超えるようになっています。日常動作の介助量も多いので、保護者の負担を少しでも軽くするためには施設・設備の改善が課題の一つです。元々は肢体不自由児通園施設で、利用者の変化には設備等を改修しながら対応していますが、トイレの数や設備のように不十分な状況にあります。発達障害の子どもには生活の場と遊びの場の区別などもっとわかりやすい空間づくりが必要ですが、現状では制約があります。施設・設備面の改善策について検討することが望まれます。</p>			
2	タイトル	地域ニーズや都立施設としての役割をふまえたセンターの将来像の下で、地域支援・在宅支援機能を強化していく取り組みに期待します	通園科	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で対面での会議が難しい等の制約はあるが、必要に応じて地域の社会資源(福祉型児童発達支援・相談支援事業所・関係行政機関等)との連携を図っている。 ・保育所等訪問支援事業を通して地域での児や家族の支援を行っている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要支援児とその家族が地域で安心して生活できるよう、保育所等訪問支援事業等を通して支援していく。 ・さらに要支援児を取り巻く各支援のネットワークをつなげるなど、都立施設としての役割を果たしていく。
内容	<p>地域支援・在宅支援機能の強化を課題としています。地域支援では、区市町村や地域の障害者施設・在宅支援施設等との連携強化、医療・療育に関するノウハウなどの積極的な情報発信などを課題としています。また在宅支援については、親亡き後の生活、療育困難な家庭や虐待等への支援を課題としています。在宅重症心身障害児者の社会資源はまだ限られています。職員数や設備等の制約がある中で難しい面もあると思いますが、地域ニーズや都立施設としての役割等センターの将来像の下で、地域支援・在宅支援機能を更に強化していく取り組みに期待します。</p>			
3	タイトル	利用者ニーズや事業運営に必要な設備等、建物設備の老朽化に伴うハード・ソフト両面の改修・整備を計画的に進めていかれるよう期待します	事務室	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのサービスに影響が出ないよう、施設・設備の維持管理や補修、更新等に随時対応している。 ・必要に応じて個別空調を新たに設置するとともに、利用者からの意見を踏まえ通園のトイレを改修するなど、利用者の生活や活動の場として安全で過ごしやすい環境の整備に努めている。 ・オーダリングシステムの導入により、情報の一元化や支援の時間確保などのサービス向上を図っている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの意見等を踏まえて、より一層安全で過ごしやすい環境を整備できるよう、施設・設備を適正に管理していく。 ・都の関係部局と協議しながら計画的な補修や更新に努めるとともに、施設の改築等の検討を進める。
内容	<p>センター建築後30年以上が経過し建物設備の老朽化が進み、計画的な施設改修を検討する必要があるとしています。必要な補修はその都度対応していますが、利用者からは空調やトイレなどの設備に対する要望も出ているとのことです。また、電子カルテシステム導入などソフト面もあわせて検討する必要があるようです。療育現場からも設備等への要望があるようですので、限られた予算や施設スペースの制約もあると思われませんが、利用者ニーズや事業運営に必要な設備等、ハード・ソフト両面の改修・整備を計画的に進めていかれるよう期待します。</p>			

令和3年度 福祉サービス第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」

No.	【生活介護(通所)】		担当部署	回答内容等
4	タイトル	利用者の増加と重症化に伴う二つの課題(送迎、入浴)について引き続き対策を検討することが望まれます	通所	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送迎は6台中4台を看護師添乗としているほか、複数職員の添乗やピストン送迎などできる限りの対応を取っている。また、ストレッチャー型車椅子の増加により5名乗車予定のバスに4名しか乗車できないケースも出ている。 ・入浴中は多くの看護と福祉の職員で支援する必要があり、入浴しない利用者の活動や見守りを支援する職員が限られる。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に、かつ、よりより生活介護サービスを提供できるよう、現状の体制の中でできる限り工夫しながら対応するとともに、バスに添乗する看護師をはじめとした職員の確保等、事業を実施するための執行体制を確保する。
	内容	利用者の増加と重症化に伴う二つの課題(送迎、入浴)について引き続き対策を検討することが望まれます。送迎では、地域が広域であるため運行時間が延び、ルート設定に苦勞する状況が続いています。利用者・家族の要望にできるだけ応えていくために、また安全な送迎を確保するために対策を研究・検討することが望まれます。入浴では、利用者の要望も強く、入浴人数の増加は入浴時間・入浴後の処置時間等の増加、職員の対応体制の強化を伴うことになります。これは日中活動に影響することにもなり、早めに対策を検討することが望まれます。		
5	タイトル	地域ニーズや都立施設としての役割をふまえたセンターの将来像の下で、地域支援・在宅支援機能を強化していく取り組みに期待します	通所	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で医ケアのある利用者の受入を進める施設に対し、職員の研修受入を行ってきた。 ・地域で医ケアの必要な利用者の受入は進みつつあるが、障害の程度の重い利用者、医ケアの重篤な利用者が当センターを利用するケースが増えている。また、在宅支援に関しては、在宅支援室とも連携し、御家族の思いに沿って社会資源とつながれるよう地域の相談支援事業所等と連携している。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も近隣区の施設等が地域で受けられる医ケアの質を高められるよう研修等で支え、医ケアの必要な在宅重症心身障害者の社会参加をバックアップしていく役割を担っていく。 ・引き続き、在宅支援室とともに訪問医、訪問看護事業所や相談支援事業所と連携強化を図っていく。
	内容	地域支援・在宅支援機能の強化を課題としています。地域支援では、区市町村や地域の障害者施設・在宅支援施設等との連携強化、医療・療育に関するノウハウなどの積極的な情報発信などを課題としています。また在宅支援については、親亡き後の生活、療育困難な家庭や虐待等への支援を課題としています。在宅重症心身障害児者の社会資源はまだ限られています。職員数や設備等の制約がある中で難しい面もあると思いますが、地域ニーズや都立施設としての役割等センターの将来像の下で、地域支援・在宅支援機能を更に強化していく取り組みに期待します。		
6	タイトル	利用者ニーズや事業運営に必要な設備等、建物設備の老朽化に伴うハード・ソフト両面の改修・整備を計画的に進めていかれるよう期待します	事務室	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのサービスに影響が出ないよう、施設・設備の維持管理や補修、更新等に随時対応している。 ・必要に応じて個別空調を新たに設置するとともに、利用者からの意見を踏まえ通園のトイレを改修するなど、利用者の生活や活動の場として安全で過ごしやすい環境の整備に努めている。 ・オーダーリングシステムの導入により、情報の一元化や支援の時間確保などのサービス向上を図っている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの意見等を踏まえて、より一層安全で過ごしやすい環境を整備できるよう、施設・設備を適正に管理していく。 ・都の関係部局と協議しながら計画的な補修や更新に努めるとともに、施設の改築等の検討を進める。
	内容	センター建築後30年以上が経過し建物設備の老朽化が進み、計画的な施設改修を検討する必要があるとしています。必要な補修はその都度対応していますが、利用者からは空調やトイレなどの設備に対する要望も出ているとのこと。また、電子カルテシステム導入などソフト面もあわせて検討する必要があるようです。療育現場からも設備等への要望があるようですので、限られた予算や施設スペースの制約もあると思われませんが、利用者ニーズや事業運営に必要な設備等、ハード・ソフト両面の改修・整備を計画的に進めていかれるよう期待します。		

令和3年度 福祉サービス第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」

No.	【 医療型障害児入所施設(旧重症心身障害児施設)(B1) 】		担当部署	回答内容等
7	タイトル	移動用機器等の導入を積極的に行うとともに常勤職員の定数確保に努め、職員の負担の軽減を図ることが望まれます	看護科 B1病棟	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の日常生活を支援するためには、体位変換や排泄交換、移乗介助は必要不可欠であり、高齢化や重症化により介護度も高く、ほとんどの入所者が全介助が必要な状況である。 ・リフトを使用しているが、職員の身体的な負担が年々大きくなっている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動用機器の整備と積極的な使用。 ・体位変換や移動・移乗介助等における2人介助の促進、職員数の確保。
	内容	日常ケアにおける移動介助業務は職員の身体への影響が大きく、腰痛や腱鞘炎などの体調不良を抱えながら業務に従事している職員が多くなります。移動用機器等の導入を積極的に行うとともに常勤職員の定数確保に努め、職員の負担の軽減を図ることが望まれます。		
8	タイトル	地域ニーズや都立施設としての役割をふまえたセンターの将来像の下で、地域支援・在宅支援機能を強化していく取り組みに期待します	看護科 B1病棟 事務室	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅の重症児・者を支援するため、空き病床を活用して短期入所の受入れを実施している。ただし、コロナ禍以降、B1病棟では受入を停止している。 ・地域の関係機関の職員を対象に、当センター職員の専門性を生かした公開講座を実施している。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の程度が重い重症児・者も地域で安心して生活できるよう、新型コロナウイルスの感染状況も踏まえ、短期入所の受入再開を検討していく。 ・地域の関係機関のニーズを踏まえた公開講座の実施等を通じて、効果的な情報を地域に発信していく。
	内容	地域支援・在宅支援機能の強化を課題としています。地域支援では、区市町村や地域の障害者施設・在宅支援施設等との連携強化、医療・療育に関するノウハウなどの積極的な情報発信などを課題としています。また在宅支援については、親亡き後の生活、療育困難な家庭や虐待等への支援を課題としています。在宅重症心身障害児者の社会資源はまだ限られています。職員数や設備等の制約がある中で難しい面もあると思いますが、地域ニーズや都立施設としての役割等センターの将来像の下で、地域支援・在宅支援機能を更に強化していく取り組みに期待します。		
9	タイトル	利用者ニーズや事業運営に必要な設備等、建物設備の老朽化に伴うハード・ソフト両面の改修・整備を計画的に進めていかれるよう期待します	事務室	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのサービスに影響が出ないよう、施設・設備の維持管理や補修、更新等に随時対応している。 ・必要に応じて個別空調を新たに設置するとともに、利用者からの意見を踏まえ通園のトイレを改修するなど、利用者の生活や活動の場として安全で過ごしやすい環境の整備に努めている。 ・オーダリングシステムの導入により、情報の一元化や支援の時間確保などのサービス向上を図っている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの意見等を踏まえて、より一層安全で過ごしやすい環境を整備できるよう、施設・設備を適正に管理していく。 ・都の関係部局と協議しながら計画的な補修や更新に努めるとともに、施設の改築等の検討を進める。
	内容	センター建築後30年以上が経過し建物設備の老朽化が進み、計画的な施設改修を検討する必要があるとしています。必要な補修はその都度対応していますが、利用者からは空調やトイレなどの設備に対する要望も出ているとのこと。また、電子カルテシステム導入などソフト面もあわせて検討する必要があるようです。療育現場からも設備等への要望があるようですので、限られた予算や施設スペースの制約もあると思われませんが、利用者ニーズや事業運営に必要な設備等、ハード・ソフト両面の改修・整備を計画的に進めていかれるよう期待します。		

令和3年度 福祉サービス第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」

No.	【 医療型障害児入所施設(旧肢体不自由児施設)(B3) 】		担当部署	回答内容等
10	タイトル	利用者の支援を適切に行うために職員の専門的な力量の向上、人材の育成・確保、関係機関との連携の強化に取り組むことが望まれます	看護科 B3病棟	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門性を高めるために倫理研修・重心看護学会・院内研修の重症心身障害者看護専門コース(2年間)等に参加。 ・日本看護協会認定看護師や公益社団法人日本重症心身障害者福祉協会認定の重症心身障害看護師を配置し、日々ケアの助言や職員育成に関わっている。 ・コロナ禍においても時間等設定しながら密を避けた面会の継続を図っている。 ・MSWを通じて児童相談所と情報交換を実施。面会時には児童相談所職員やMSW・病棟看護師長等が同席をしている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門研修は外部講師や院内認定看護師等が講師となり、看護実践力の向上やリーダー育成を目指し引き続き実施していく。 ・長期入所児と保護者の愛着形成を促進できるよう各種の取組を継続するとともに、家族復帰も視野に入れた日々のケアを実践していく。
	内容	利用者は重度の身体障害と知的障害を併せ持つ重症心身障害児が約7割で、措置児も多くいます。幼児から過齢児まで年齢も幅広く、複数介助の必要な児童もいて、状態像の多様化に対応する適切なケアを行うことが課題となっています。家族関係に困難を抱える利用者に対する支援も大切な課題です。このような課題に対して、職員の専門的な力量を高めるための研修の充実や人材の育成・確保に努力すること、及び児童相談所などの関係機関との連携を強化することが望まれます。		
11	タイトル	地域ニーズや都立施設としての役割をふまえたセンターの将来像の下で、地域支援・在宅支援機能を強化していく取り組みに期待します	看護科 B3病棟 事務室	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅の重症児・者を支援するため、空き病床を活用して短期入所の受入れを実施している。 ・地域の関係機関の職員を対象に、当センター職員の専門性を生かした公開講座を実施している。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の程度が重い重症児・者も地域で安心して生活できるよう、引き続き短期入所の受入を進めていく。 ・地域の関係機関のニーズを踏まえた公開講座の実施等を通じて、効果的な情報を地域に発信していく。
	内容	地域支援・在宅支援機能の強化を課題としています。地域支援では、区市町村や地域の障害者施設・在宅支援施設等との連携強化、医療・療育に関するノウハウなどの積極的な情報発信などを課題としています。また在宅支援については、親亡き後の生活、療育困難な家庭や虐待等への支援を課題としています。在宅重症心身障害児者の社会資源はまだ限られています。職員数や設備等の制約がある中で難しい面もあると思いますが、地域ニーズや都立施設としての役割等センターの将来像の下で、地域支援・在宅支援機能を更に強化していく取り組みに期待します。		
12	タイトル	利用者ニーズや事業運営に必要な設備等、建物設備の老朽化に伴うハード・ソフト両面の改修・整備を計画的に進めていかれるよう期待します	事務室	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのサービスに影響が出ないよう、施設・設備の維持管理や補修、更新等に随時対応している。 ・必要に応じて個別空調を新たに設置するとともに、利用者からの意見を踏まえ通園のトイレを改修するなど、利用者の生活や活動の場として安全で過ごしやすい環境の整備に努めている。 ・オーダリングシステムの導入により、情報の一元化や支援の時間確保などのサービス向上を図っている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの意見等を踏まえて、より一層安全で過ごしやすい環境を整備できるよう、施設・設備を適正に管理していく。 ・都の関係部局と協議しながら計画的な補修や更新に努めるとともに、施設の改築等の検討を進める。
	内容	センター建築後30年以上が経過し建物設備の老朽化が進み、計画的な施設改修を検討する必要があるとしています。必要な補修はその都度対応していますが、利用者からは空調やトイレなどの設備に対する要望も出ているとのことです。また、電子カルテシステム導入などソフト面もあわせて検討する必要があるようです。療育現場からも設備等への要望があるようですので、限られた予算や施設スペースの制約もあると思われませんが、利用者ニーズや事業運営に必要な設備等、ハード・ソフト両面の改修・整備を計画的に進めていかれるよう期待します。		